

全体を通して(特に良いと思われる点)	
利用者とともに手作りされた庭には、季節ごとに楽しめる花木が植えられ、「いつでも、誰でも、自由に」来訪していただけるような親しまれやすい雰囲気を目指しておられるグループホームである。ホームでは「待つ」ことにケアの重点を置き、施設長を中心に「自分の力で生活をしていると感じていただけるような環境作り」に取り組んでおられる。職員は「自立支援」というホームの理念を理解した上で必要以上に手や口を出さず見守りながらそれぞれの暮らしを支援されており、その中で利用者一人ひとりのその人らしさを見出しておられた。気ままに屋外に出られる利用者に対して職員は納得されるまで見守りを続けている。利用者それぞれの個性を大切にされながら一人ひとりにさりげなく寄り添い「ゆっくり」を支えているグループホームであった。	
分野	特記事項(特に改善を要すると思われる点)
運営理念	要改善点は特にないが、ホームの目指していることについて利用者やご家族はもとより、ご近所の人たちにもさらに知っていただけるような取り組みが望まれる。地域の認知症ケアの向上のためにも自治会などにも協力をお願いしながらすすめていってほしい。
生活空間づくり	居間にソファや椅子がたくさんあり利用されているが、利用者の年代を考慮し、一人ひとりが共用部分でさらに心地よく過ごすために工夫できることについて話し合ってみてほしい。利用者やご家族などにも聞き取りながらすすめてみてほしい。古時計や蒸気アイロンなど懐かしい物品は利用者にとっても貴重な思い出の品であるので、集まる場所に飾るなど置き場所について工夫されてみてはどうだろうか。共用部分の居場所としつらえについてこの機会に合わせて考えてみてほしい。
ケアサービス	見守り重視の支援に心がけているがすべての職員が実践できるまでに至っていないので、「自立支援」という理念を目指し職員が一丸となって取り組んでかれることが期待される。テレビは嗜好品と捉え共用部分に置いておらず利用者とのコミュニケーションを大切にされているが、外部の情報などをご自身で知ることができるようなものについてもさらに増されてはどうだろうか。利用者の習慣や年代を考慮しつつすすめていってほしい。職員は緊急時の対応ができるかという不安を持たれているので、いざという時に慌てないための方策を充実していってほしい。
運営体制	近所の人たちと接する機会があるたびに地域との関係作りをすすめておられるが、交流するまでに至っていないので、今後、ホームのことをさらに理解していただけるよう信頼関係作りを一步進めて取り組んでみてほしい。ホーム内の衛生には気を配っておられるが、流し台の隅や台所周りは目が行きにくいところでもあるので、この機会に職員で話し合っ衛生管理についてもさらに充実されたい。

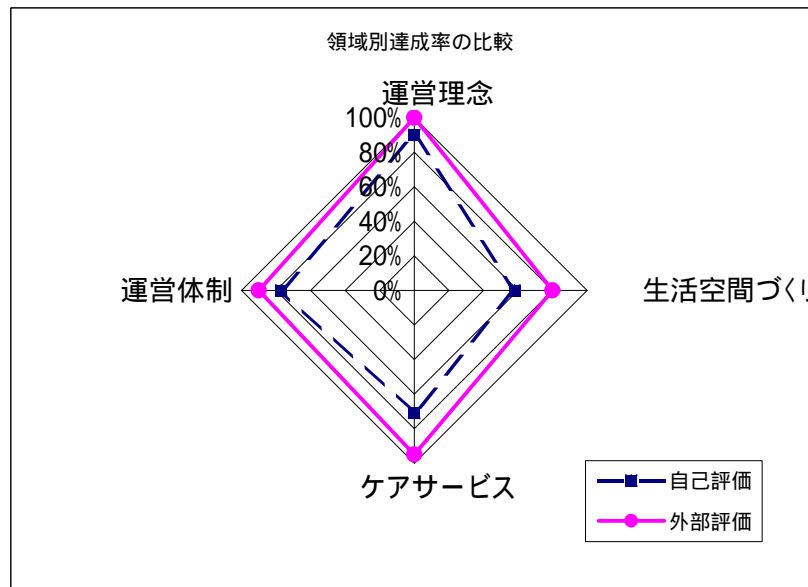
分野・領域	項目数	「できている」項目数
運営理念		
運営理念	4項目	4
生活空間づくり		
家庭的な生活環境づくり	4項目	2
心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6
ケアサービス		
ケアマネジメント	7項目	7
介護の基本の実行	8項目	7
日常生活行為の支援	10項目	10
生活支援	2項目	2
医療・健康支援	9項目	8
地域生活	1項目	1
家族との交流支援	1項目	1
運営体制		
内部の運営体制	11項目	10
情報・相談・苦情	2項目	2
ホームと家族との交流	3項目	2
ホームと地域との交流	4項目	3

### 自己評価・外部評価の達成率の比較

自己評価作成日	平成17年5月10日
訪問調査日	平成17年6月1日
評価結果確定日	平成17年7月7日

分野・領域	自己評価結果	
	項目数	達成率
運営理念	5	90%
生活空間づくり	13	58%
ケアサービス	77	71%
運営体制	40	77%
合計	135	72%

分野・領域	外部評価結果	
	項目数	達成率
運営理念	4	100%
生活空間づくり	10	80%
ケアサービス	38	95%
運営体制	20	90%
合計	72	92%



#### レーダーチャート・表の見方

\*自己評価結果・自己評価作成は、各ユニット毎に行ないます。その結果、ホームで「できている」と回答した数を集計し一事業所での達成率として表しています。

\*外部評価結果・外部評価は、ユニットすべてを調査しますが、評価結果は、事業所単位で表しています。

\*自己評価・外部評価の達成率の比較・自己評価が外部評価の達成率に比べて低くなっている場合があります。これは事業者自ら提供しているサービスに対し「まだ十分でない」「もっと改善の余地があるのではないか」という質の向上に向けた取り組みの姿勢と捉えることができます。

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己					
	<b>運営理念</b>					
	1. 運営理念の明確化					
1	1				管理者は、理念を明確に言語化し、態度や実践を通して日常的に職員に話しているため、職員も理念の大切さを十分理解し共有化が図られていた。	
2	3				理念が和紙に筆で書かれ、すだれに張るなどしてあたたかい味わいを醸し出されるような工夫がなされ、廊下や事務室など目に付きやすいところにかけている。	
3	4				権利、義務についてはグループホーム協会の書式を使用されておりご家族などにも説明されている。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5				利用者は一人で外出されることがありご近所の方にも声をかけていただくこともあり、近所の方に認知症を理解されるよう啓発の機会と捉えている。また地方新聞などの掲載による啓発も積極的に行っている。	
	<b>運営理念 4項目中 計</b>	4	0	0		
	<b>生活空間づくり</b>					
	1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6				道路に面した駐車場に自動販売機を設置するなど近隣の住民も敷地内に自由に入出入りしていただけるような工夫がなされている。玄関周りには草花が手入れされており、ベンチの設置など親しめるような雰囲気作りが心がけておられた。	ホームの表札はフェンスに掛けられており馴染んでいたが周辺が広い畑でもあることから今後、表札の向きなどについても工夫される予定である。
6	7				昔懐かしい物品が揃っているが、廊下に並べての展示になっており利用者の目にふれる機会が少ないように感じる。	時計やアイロンなど懐かしい物品は利用者にとっても貴重な思い出の品であるので、皆さんが集まる場所に飾るなど置き場所について検討されたい。
7	8				広々とした居間にはソファーやテーブル、いすが置かれ、庭にもベンチなどがあり利用者は自由に過ごすことができるようになっているが、利用者の世代を考えると共用空間内にも足を伸ばせるような場所作りなども考えてみてほしい。	利用者の要望やご家族の意見なども聞き取りながら、さらに利用者がくつろぐことのできる共用空間作りへの工夫を重ねていってほしい。

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
8	9	利用者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり  居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。				テレビやタンス、ソファなど自由な持ち込みがあり、一人ひとりが安心して過ごせるような場所になっている。	
<b>家庭的な生活環境づくり 4項目中 計</b>			2	2	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり							
9	11	身体機能の低下を補う配慮  利用者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)				ホーム内はバリアフリーになっておりスロープや手すりなども各箇所に設置され、トイレも広々しており車いすでも利用できる。ホーム内は身体機能が低下してもできるだけ自立した生活を送ることができるような配慮がされている。	
10	13	場所間違い等の防止策  職員は、利用者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)				居室の入り口には本人が選んだのれんがかけられている。扉にはリボンが付けられていたり、トイレについてもわかりやすく目印があった。	さらに、各箇所の目印が利用者一人ひとりにとって分かりやすいものになっているか、この機会に点検してみてもどうか、自立した生活を支援していくという観点からも取り組んでみてほしい。
11	14	音の大きさや光の強さに対する配慮  利用者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)				自然の光を十分に採り入れ照明に配慮している。職員の話し声も周囲への気遣いが感じられた。	
12	15	換気・空調の配慮  気になる臭いや空気のおよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。				となりに池があり窓を開けるとさわやかな風が入り、自然の風で十分な換気がされている。	
13	17	時の見当識への配慮  見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。				時計が何箇所かに置かれておりカレンダーも見やすい位置に設置されていた。ホーム内には季節の花なども飾られ、庭や周りの畑などからも季節感を感じられる。	旬の食材をふんだんに利用するなど食事などでも季節感を採り入れていってほしい。利用者との会話の中にもさらに採り入れていってほしい。
14	18	活動意欲を触発する物品の用意  利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)				玄関にほうきとちりとりが置かれてあり、居間にある足踏み式ミシンを利用されている方もおられる。	さらに、男性の利用者の興味のある物品についても採りながら物品の用意をされてはどうだろうか。
<b>心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計</b>			6	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		<b>ケアサービス</b> 1. ケアマネジメント					
15	20	個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立て、利用者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。				アセスメントに基づいて、利用者本意の具体案を取り入れた介護計画を作成している。	
16	21	介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。				介護計画はすべての職員の意見を採り入れ、個別の記録とともに見られるようになっており、すべての職員が共有できる仕組みになっている。	
17	22	介護計画への利用者・家族等の意見の反映 介護計画を、利用者や家族等とも相談しながら作成している。				ご家族の訪問時に意見を出してもらい介護計画に反映している。また確認印をいただくようになっており、計画書のコピーを毎月送付している。	
18	23	介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時見直しを行っている。				月に1回見直しを行うようになっている。目標についてもその都度話し合うようになっている。半年に1回は全体の見直しがされている。	
19	24	個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。				個人記録や日誌などに個別に記録されている。パソコンでの管理になっており情報の集計もできるようになっている。	なお、利用者一人ひとりの継続的な暮らしを支援していくという観点からケアしながらも記録を繰り返してみることができるような工夫も考えてみてはどうだろうか。
20	25	確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にし、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。				朝夕の口頭でも申し送りのほかにもお知らせ回覧板があり、発信者のサインと職員が確認済みのサインをするようになっており確実に情報が伝達できるような仕組みになっている。	さらに、ご家族など外部からの伝言などはどの職員でも対応できることが望ましい。また、ご家族などにも職員の名前を知っていただけるような方策について話し合い職員一人ひとりが積極的にご家族と信頼関係を深めてほしい。
21	26	チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。				月に1回ミーティングが開催され法人代表も含め職員で活発な意見交換が行われている。また同時に介護計画の見直しもされており利用者一人ひとりについて話し合われている。ミーティング前に職員の意見を聞くようになっており、全職員で意見交換を行い合意を図っている。	
<b>ケアマネジメント 7項目中 計</b>			7	0	0		

項目番号 外部 自己	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27 利用者一人ひとりの尊重 職員は、常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(利用者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)				調査訪問時、食事を楽しくいただくための配慮された声掛けやさりげない介助がうかがえた。例えばお吸い物のソーメンがお箸からすべり落ちそうになった時、職員が小皿で受け止められ、利用者の方が笑顔で「ありがとう。お富をあげようか」と言われた。職員はお富についてご本人から教えていただきながら楽しい会話が広がった。	さらに、自分で生活していると思えるような暮らしを支援していくという観点から職員は、日々の暮らしで「見守り」「待つ」ということを実践されていることは素晴らしい。今後も、一人ひとりの人格を尊重したケアに向けてのさらなる取り組みを期待している。
23	28 職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。				調査訪問時、職員の「ゆっくり」「ゆったり」と接しており穏やかな雰囲気がうかがえた。	
24	30 利用者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 利用者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。				日頃の暮らしの中で聞き取るなど、職員は一人ひとりのこれまでの生活歴を把握できるよう努めておられる。	男性の利用者についてはホーム内でこれまでの経験を活かすことは難しいこともあるだろうが、その人らしい心落ち着く暮らしを支援していくためにもあきらめることなく職員で話し合いたい。ご家族とも相談されながら工夫を重ねていってほしい。
25	32 利用者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。				起床時間に決まりはなく、ご本人が起床したい気分になるように五感に働きかけられるような支援している。	利用者の希望されているホームでの暮らし方やご家族などが求められている暮らし方について意見を聞き取り、さらにご本人のペースで無理なく暮らしていけるよう支えていってほしい。
26	33 利用者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、利用者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)				職員は「どれにしますか」「どちらにしますか」と積極的に決めたり選んだりしてもらっている。	さらに、選んだり決めたりすることを通じて、ご本人の暮らしの中の自信や活力などにもつなげていってほしい。
27	35 一人ができることへの配慮 自立支援を図るために、利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)				職員は、自立に向けての支援に努められているが、職員は、日々の忙しさのあまり職員のペースになってしまうことがある。	利用者の自立に向けた支援が行われているが、理念にも掲げられ「永遠の目標」としており、ホームのさらなる支援の充実が期待される。
28	37 身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。				身体拘束は一切行っていない。	
29	38 鍵をかけない工夫 利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族等に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)				日中は、玄関に施錠はしておらず自由な暮らしが保たれている。夜間は防犯のために施錠しているが利用者の希望時には開錠している。	
介護の基本の実行 8項目中 計		7	1	0		

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43 馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、利用者一人ひとりが使い慣れたものになっている。				一人ひとりがお気に入りの茶碗や湯呑み、箸などを使用している。またホームでも持ちやすさや食べる量などを考えながら食器を用意している。	
31	44 利用者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。				できるだけ皆さん同じものを食べていただけるよう工夫されている。歯の治療も積極的にすすめており、一人ひとりが楽しく、おいしく食事ができるよう配慮されている。	さらに、体調不良時にご家族は、どのように対応されていたかということが聞かれたりされながら健康状態に合わせた食事作りの工夫をされてはどうか。
32	45 個別の栄養摂取状況の把握 利用者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。				食事量や排泄状態などからおおよその栄養摂取状況を把握している。職員は意思を表出しにくい利用者に対し、表情やことばなどからも求めてられることを察知し、気を配っている。	食事の味付けなどについても利用者に味見をしていただくなど利用者の好みなど採り入れながら調理されてはどうか。
33	47 食事を楽しむことのできる支援 職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。				一緒に食事をとり、和やかな雰囲気であった。食べこぼし等に対するサポートも、さりげなく行われていた。	さらに、食事を楽しむ工夫として季節の食材の使用なども積極的にすすめてほしい。
	2) 排泄					
34	48 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。				排泄記録によりパターンやタイミングを把握している。オムツを使用されていた方もリハビリパンツになりトイレに行くことができるようになるなど積極的に自立に向けての支援を行っている。	
35	50 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。				職員はご本人の様子で排泄の有無を察し、さりげなくお誘いしている。居室にてご自身で汚れた衣類を片付けされる方については、職員がご本人の不在時に確認するなどプライバシーに配慮しながら支援している。	居室(個人のスペース)に職員が立ち入ることはご本人との信頼関係により行われているだろうが、今後もさらに関係性を深められ利用者と一緒に居室の整理を行えるよう取り組まれてみてはどうか。またご家族などとも相談されながらすすめていってほしい。
	3) 入浴					
36	53 利用者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 利用者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)				一日を通して、本人の希望に沿えるような入浴の支援を行っている。入浴を嫌がる利用者には、タイミングをみながら声かけを行うなど職員間で工夫がされている。	さらに、お風呂の時間がホッとすると時となるような、くつろいだ入浴の工夫についてもすすめていってほしい。一人ひとりのこれまでの入浴の習慣などについても聞いてみてほしい。
	4) 整容					
37	56 理美容院の利用支援 利用者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)				一人ひとりの希望に沿えるよう行きつけや近所の理美容室の利用を支援している。	さらに、外出時におしゃれするなどホーム内と外出のメリハリなどによりご本人の活力や自信などにつなげてほしい。その人のおしゃれ心を積極的に支援していってほしい。

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
38	57 プライドを大切にした整容の支援  整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)				職員は、一人ひとりの整容に気を配っておられるが、男性利用者のひげや爪などの手入れについてもご本人と相談しながらすすめていってほしい。	さらに、ご本人のプライドを大切にしたり気ないカバーという観点から日頃の支援のあり方についてこの機会に振り返ってみてはどうだろうか。
	5) 睡眠・休息					
39	60 安眠の支援  利用者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない利用者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。				入居当初はほとんどの方が安定剤を服用されていたようであるが、現在は、日中に散歩や掃など一人ひとりに合った活動を通して生活のリズム作りに心がけ服薬しなくても安眠できるように協力医療機関と相談しながらすすめておられる。	また介護計画にも盛り込みながら安眠に向けた支援が行われている。
<b>日常生活行為の支援 10項目中 計</b>		10	1	0		
	(3)生活支援					
40	64 金銭管理の支援  利用者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、利用者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。				個々の力量に合わせての金銭管理の支援になっている。	日頃からお金に関する会話に心がけるなどお金に興味を持っていただくことなどで、買いたい物、ほしいものなどの希望を表出する機会を意図的に作り、ご本人の日々の活力などにもつなげていってほしい。
	(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66 ホーム内の役割・楽しみごとの支援  ホーム内で利用者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)				掃除や洗濯、食事作り一連やごみを出す方、ウサギのえさ採りに出かける方など役割があり、職員は積極的に場面作りができるよう支援している。	さらに、一人ひとりの生活の拡充のためにも広い庭や畑などホーム内の戸外の活用についても工夫を重ねてみてはどうだろうか。
<b>生活支援 2項目中 計</b>		2	0	0		
	(5)医療機関の受診等の支援					
42	68 医療関係者への相談  心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)				協力医療機関と連携を図りいつでも相談できるような体制がある。	
43	73 早期退院に向けた医療機関との連携  入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。				協力医療機関と連携をとりご家族とも相談しながら早期退院に向けて話し合いが行われている。	
44	74 定期健康診断の支援  年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。				利用者は、加療中の方でかかりつけ医が健康管理を行ない必要に応じて血液検査なども行っている。定期健康診断については2、3年かけて整備して予定がある。	さらに、市の検診なども利用できないか検討されてはどうだろうか。



項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76 身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。				外出、家事など生活の中で自然に身体機能が維持向上できるよう取り組んでいる。また窓を開けておくなど利用者が、庭に出たくなるような雰囲気作りをされている。	外出を嫌がる方やホーム内でも活動することを嫌がる方などはいないだろうか。この機会に点検し日常生活の中で身体機能が維持向上できるような取り組みについて職員同士で話し合い、一歩進めて考えてみてはどうだろうか。
	(7)利用者同士の交流支援					
46	78 トラブルへの対応 職員は、利用者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。				時に発生するトラブルについては職員が原因を把握し適切に対応している。できるだけトラブルが発生しないよう職員は心がけており、役割を分担するなどプライドを大切にしながら支援している。	
	(8)健康管理					
47	80 口腔内の清潔保持 利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)				毎食後の歯磨きや義歯の手入れなど、口腔の清潔を日常的に支援している。	食事をより楽しむために義歯の調整などを積極的に支援されている。
48	83 服薬の支援 職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。				一人ひとりの服薬状況を職員は把握できるよう努めている。食後の服薬についても確実に服薬できているか確認を行っている。	
49	85 緊急時の手当 利用者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)				緊急時にはいつでも対応できるように、緊急時の連絡網の整備や職員の配置はなされているが、職員はいざというときに対応できるかという不安がある。	職員が何に不安を持っているのかということを知りながら不安の解消に向けて取り組んでほしい。またいざという時に慌てないためにも救急救命の実技を伴う講習などを継続的に受講されてはどうだろうか。
50	86 感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)				感染症マニュアルを整備している。石鹸で手を洗うことを習慣付けている。また熱湯消毒や日光消毒など一般家庭のような消毒方法で感染予防を行っている。	
<b>医療・健康支援 9項目中 計</b>		8	1	0		
	3. 利用者の地域での生活の支援					
51	90 ホームに閉じこもらない生活の支援 利用者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)				買い物や散歩、ドライブなどに出かけているが、さらなる利用者の生活の拡充のためにも近所で楽しめるような工夫についても一歩踏み出して進めてほしい。	さらに利用者の生活の拡充のためにも近所で楽しむことができる場所を積極的に開拓してほしい。
<b>地域生活 1項目中 計</b>		1	1	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		4. 利用者と家族との交流支援					
52	94	家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)				ご家族の訪問時に職員は、気持ちのよいあいさつに心がけ、ホーム内で心地よく過ごしていただいている。また宿泊されるご家族もありご家族にとっても自由に過ごせる空間になっている。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		<b>運営体制</b> 1. 事業の統合性					
53	96	責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。				法人代表、管理者はケアサービスの質の向上に熱意を持ち、お互い連絡を密にとりながら日々ケアに取り組んでおられる。	
54	97	職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、利用者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。				ミーティングの前に、職員の意見を無記名で書いてもらうなど課題を出し合い話し合われている。職員の意見を反映できるような取り組みがなされている。	
55	101	成年後見制度等の活用推進 利用(予定)者やその家族による、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の活用を推進している(制度概要等の説明、申立手続に関する専門機関や相談窓口の紹介等)。また、専門機関等は認知症高齢者の特性やグループホームをよく知っており、利用者や家族等並びにホームを支えていく協力体制が確保されている。				利用相談時に利用者の権利とともに説明されている。制度の必要性や重要性について今後も継続的に周知されていくことを期待している。	
		2. 職員の確保・育成					
56	102	利用者の状態に応じた職員の確保 利用者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。				現場職員の意見を反映したローテーションが組まれている。また利用者の状態に合わせ早出、遅出なども採り入れられており、必要時には施設長が補うようになっている。	職員は、いざという時には施設長に連絡し支持を得るようになっており安心してケアに従事できている。
57	104	継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。				職員が外部の研修を受講時には、ミーティングで研修内容を発表し、職員間で周知している。	
58	106	ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)				忘年会や、ボーリング大会などホームで企画し職員同士の親睦を図っている。また施設長は頻繁にホームを訪れ職員とも話している。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		<b>3. 入居時及び退居時の対応方針</b>					
59	108	利用者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、利用者・家族の希望等)				ホームの利用条件を満たしており家庭訪問なども行われている。ご家族などとも相談して入居を検討している。	
60	110	退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、利用者や家族等に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。				これまでの退居は、ご本人やご家族の希望であった。納得のいく移行先を支援している。	
		<b>4. 衛生・安全管理</b>					
61	113	ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)				職員は、ホーム内の衛生に気を配っておられるが台所の流し台の隅や台所の周りの衛生の管理も充実されたい。	梅雨時期や夏場など季節によって特に気を付けることなど、ホームの衛生管理についても職員で話し合ってみてはどうだろうか。
62	115	注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。				洗濯洗剤は棚の上に保管されるなど、注意の必要な物品については、保管場所を決めもとの場所に戻すように徹底されている。	
63	117	事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後活かす意義づけ等)				事故発生時には、市にすみやかに報告している。またホーム内でも事故再発防止に向けてどのように工夫したらよいかということ時間をかけて話し合われている。	職員は事故発生時のご本人やご家族の気持ちなども考慮し、さらに安心できる暮らしのためにもサービスの改善に向けすすめていけるよう積極的な取り組みが期待される。
<b>内部の運営体制 11項目中 計</b>			10	1	0		
		<b>5. 情報の開示・提供</b>					
64	119	調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。				ご家族や本人から同意を得られた方の情報や事業所の運営に関する情報などについて積極的な情報提供があった。	訪問調査時の対話の中でのホームの気付きをこれからのサービスの質の向上のためにも積極的に活かしていくことが期待される。
		<b>6. 相談・苦情への対応</b>					
65	120	相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、利用者及び家族等にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。				相談や苦情受付は、文書や口頭にて伝えている。	ご家族は「よくしていただいているのでこれ以上ホームに望んで気持悪い」「嫌われたくないから」という気持ちを持たれていることが多く、さらにご家族の立場での相談や苦情を受け付けることができるような仕組みについて工夫を重ねてほしい。
<b>情報・相談・苦情 2項目中 計</b>			2	0	0		

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	<b>7. ホームと家族との交流</b>					
66	123 家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。				ご家族の来訪時近況報告をしたり、電話にて定期的に状況を知らせご家族の要望や意見を出していただいている。	
67	124 家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、利用者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。(「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)				来訪時や電話などで個々の日頃の暮らしぶりを伝えているが、さらにホーム全体の様子や職員の紹介などをご家族が知ることができるようなホーム便りなどの取り組みなども望まれる。	プライバシーにも配慮しながらすすめていってほしい。楽しみになるようなホーム便りの発行を期待している。
68	127 利用者の金銭管理 利用者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族等と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。				ホームで預かっているお金については、ご家族の訪問時に報告をしたり請求書とともに出納帳のコピーを送付し確認していただいている。	
<b>ホームと家族との交流 3項目中 計</b>		2	1	0		
	<b>8. ホームと地域との交流</b>					
69	128 市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。				施設長は市と連携を図り、介護教室の講師をされたり、その他にも行政と積極的にかかわり認知症ケアの向上に取り組んでいる。	市の役割としてグループホームの理解や活用が求められており、地域の認知症ケアの向上のためにも、市と積極的に連携を図っていただけるようホーム側からも働きかけていかれることが望まれる。
70	131 地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。				行方不明者の捜索や、ウサギが逃げたりする時に近所の方が探してくれるなどの機会を有効に活かしてご近所との関係作りをすすめているが、交流するまでに至っていない。	難しいこともあるだろうが、ホーム前の神社の夏祭りなどきっかけにされたりしながら時間をかけて関係性を構築していってほしい。
71	133 周辺施設等の理解・協力への働きかけ 利用者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)				近所の商店や理美容室、警察に協力を呼びかけ、ホームを理解していただけるよう働きかけを行なっている。	さらに、利用者の生活の拡充のためにも地域資源を活用できる
72	134 ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)				いつでも誰でも、見学や研修を受け入れている。認知症ケアの相談なども積極的に行ない地域にホームの機能を還元できるよう取り組んでいる。	
<b>ホームと地域との交流 4項目中 計</b>		3	1	0		

\* (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

(2)「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。